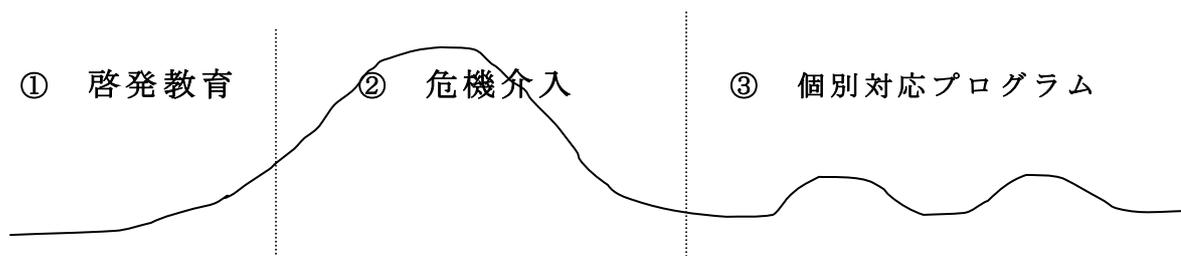


「いじめや問題行動の予防と対応」

早稲田大学教育学部 本田恵子

I いじめへの対応として学校でできることは何か？

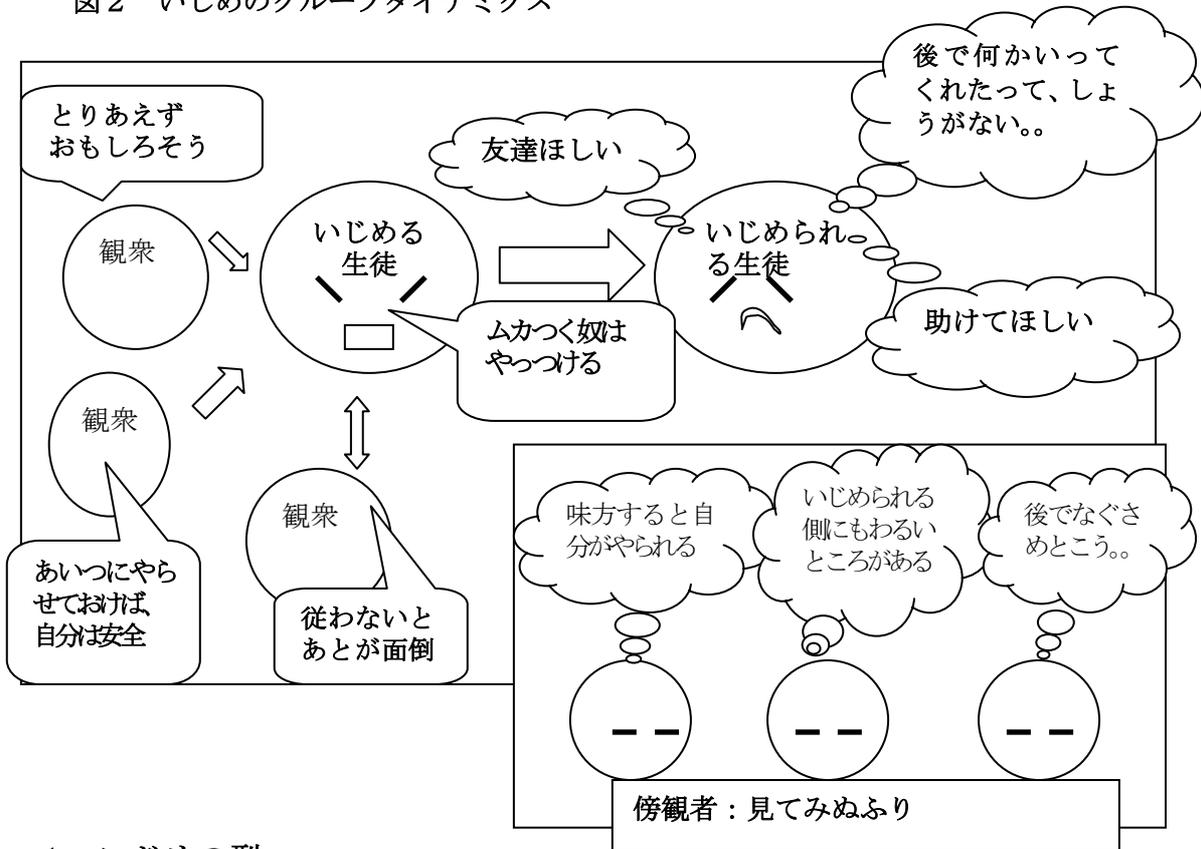
1. 「暴力」「いじめ」のアンガーマネジメントの一連の流れ



HR・教科での教育	「いじめ」「暴力」現場での対応	個別アンガーマネジメント
生徒全体へ 道徳・学級活動など ①「怒り」の理解 ②「感情の発達」教育 ③「いじめ」「暴力」と何か？の啓発 ④「ソーシャルスキルラーニング」 ☆ ストレス耐性 ☆ アサーション ☆上手なことわり方 ☆危機の対応スキル ☆対立解消スキル ☆ ピア・サポート ☆ ピアプレッシャー	アジテーション時の対応 (はやしたての時期) いじめ・暴力を受けている生徒へ 挑発にのらない 状況の把握 助けを求める 発見した生徒へ 状況の把握 可能な場合は介入・ブザー 教員を呼びに行く 教員全体へ 行動を制する方向で対応 対応の可能性の見極め	いじめ・暴力を繰り返す加害者に対する個別アンガーマネジメント ☆いじめ・暴力の背景の理解 ☆ 怒りの出し方・コミュニケーション方法等) いじめ・暴力を受けやすい生徒へのカウンセリング・対応力の育成 ☆ なぜ受けやすいのか ☆ セルフエスティームの増進 ☆ 友だちの作り方、ソーシャルスキルの習得
学校全体へ 行動規範の設定 ☆ 暴力・暴言への対応システムの整備 ☆ 危機介入チームの体制作り	ピーク時の対応 (いじめ・暴力が過激になっている時) けがの程度・興奮状態の確認 対象生徒の安全の確認 (凶器、周囲の危険物など) 観衆の移動 応援の依頼 (学校内部・外部:救急車) など	対立している者同士の対立解消 限界設定：対立解消するまで、面接以外で接触しない約束 対立の原因の理解 ピア・カウンセリング
地域へ 地域の安全の確保	小康状態 何が生じたのかをディブリーフィングする 対象生徒の個別対応 他の生徒への対応 対応した教職員へのディブリーフィング 保護者への連絡	学級・学年の他生徒への対応 危機介入方法の伝達 不足している共感性 ソーシャルスキルの育成 学内の体制作り →啓発へ

2. グループダイナミクスからの「いじめ」・暴力の理解

図2 いじめのグループダイナミクス



1 いじめの型

1) さる山のボス争い型はいじめ

2) みにくいアヒルの子型はいじめ (異質なものの排除)

質・量：体形、アトピー、転校生、親の職業、性格、運動能力、LD など、

3) 犯罪型はいじめ

恐喝、暴行、万引きの強制など

2 いじめ・暴力は生後学習された行動パターンである という理解

☆ 病理・障害との見極めをどうするのか？

☆ どこで、誰から学習したものか？

(一方通行のコミュニケーション：命令・強迫・合理化など)

1) 支援が必要なのは誰か？

- ① いじめっ子 ② いじめられっ子 ③ 観衆 ④ 傍観者 ⑤ 各々の保護者
⑥ 学級担任 ⑦ その他の教員

2) どのような支援が必要か？

- ① 査定 ② カウンセリング、医療 ③ 保護者間のコミュニケーション
④ 教員へのコンサルテーション ⑤ 家庭と支援機関とをつなぐソーシャルワーク
⑥ 学校内外の組織同士のコーディネーション (教育相談室、警察、児童相談所、病院、児童更生施設など)

3) 必要な支援はどこで得られるのか？